

女性職員の採用に係る現状・課題

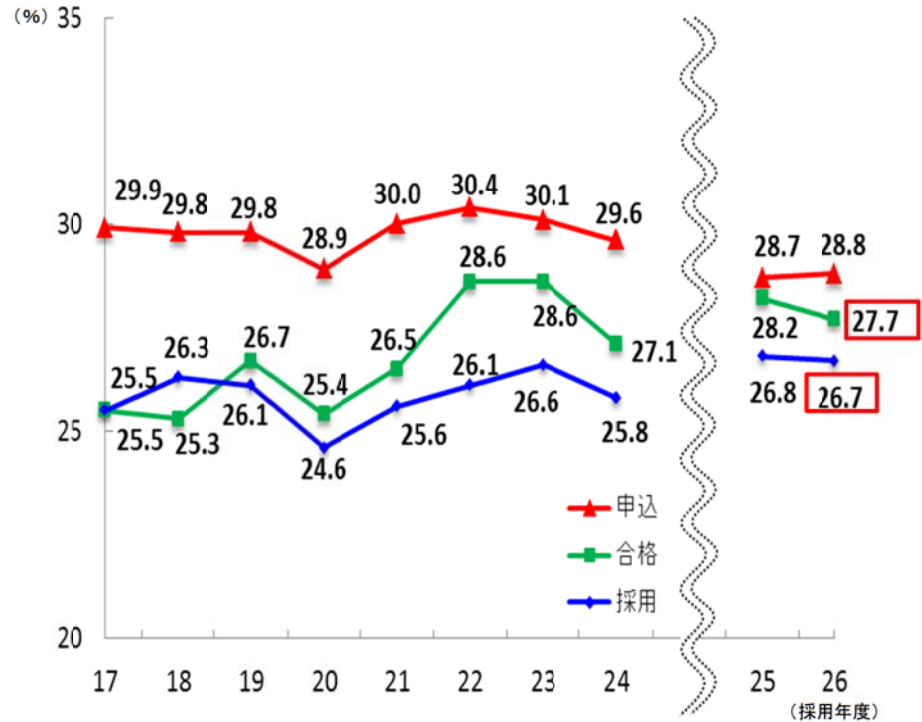
- 近年、国家公務員採用試験の合格者数に占める女性割合は28%程度を、採用者数に占める女性割合は27%程度を推移
- 今後採用者数に占める女性割合をさらに増加させるためには、**国家公務員採用試験の合格者数に占める女性割合を増やす必要**
- 民間企業や公務の経験がある有為な女性の活用も重要

○ 第3次男女共同参画基本計画における目標値と現状値

	目標値	現状値
国家公務員採用試験からの採用者に占める女性の割合	30%程度 (平成27年度末)	26.7%程度 (平成26年4月)
うち I 種(総合職)試験の事務系区分の採用者に占める女性割合	30%程度 (平成27年度末)	27.5%程度 (平成26年4月)

(注) 「事務系区分」とは、院卒者(行政区分及び法務区分)、大卒程度(政治・国際区分、法律区分、経済区分及び教養区分)、I種試験(行政区分、法律区分及び経済区分)をいう。
 (出典) 女性国家公務員の採用状況のフォローアップ(平成26年9月22日内閣官房内閣人事局・人事院)

○ 国家公務員採用試験の申込者・合格者・採用者に占める女性割合



(注) 1 平成22年度以前における「申込」、「合格」、平成21年度以前における「採用」は、人事院年次報告書及び防衛省調べに基づき算出した割合。
 2 平成25年度(採用年度)の「申込」「合格」の割合は、総合職等・一般職・専門職等の数値である。(「採用」については、総合職・一般職・専門職等のほか旧年度のI種試験合格者からの採用者を含む。)
 (出典) 女性国家公務員の採用状況のフォローアップ(平成26年9月22日内閣官房内閣人事局・人事院)